

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(久居高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	○ 校訓「意欲・誠実・創造」の理念のもと、学校生活の充実と確かな進路保障を通じて生徒・保護者・地域から信頼される魅力ある学校づくりを推進し、地域や社会に貢献する人材の育成を目指します。	
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	「自律し、自立する大人へ」 ○ 基本的生活習慣・社会規範を身に付け、何事にも意欲的、誠実に取り組み、社会の一員として自ら主体的に判断し、責任ある行動を取る生徒 【自律する力】 ○ 社会の変化に対応するため、自らを高めようと、日々の授業を大切にし、家庭学習等を通じ学力の定着と向上に取り組む生徒 【学力＝聴く力・読み取る力・考える力・書く力・話す力】 ○ さまざまな教育活動を通じて、互いを尊重し合い、違いを認め合うことのできる心豊かな生徒 【自己理解力】 ○ 学校行事や生徒会活動、部活動等の自主的活動に積極的に参加し役割を担うことにより責任感と協調性を身に付け、地域や社会に貢献できる生徒 【やり抜く力・協働する力】
	ありたい教職員の姿	○ 率先して教育活動に取り組む意欲と活力ある教職員集団 ○ 生徒が「わかる」「力がつく」を実感できる授業を実践するため、公開授業や教科内・校内での改善活動を積極的に推進する教職員集団 ○ 教育に携る者としての自覚と規範意識を持ち、生徒への深い愛情に基づく教育を実践するとともに、同僚と協働することができる教職員集団

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> 充実した授業を受けたい。活発な部活動をしたい。進路希望を実現したい。 <保護者> 安全・安心の学校生活。卒業後の進路保障。モラルの向上。社会人として自立できる力を育てて欲しい。 <地域> 公共心とマナーの育成。地域の普通科高校として信頼できる教育を推進して欲しい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 <家庭> 毅然とした生活指導を行いながらも、子どもの心に配慮した教育を行なって欲しい。 <中学校> 学校の様子、卒業生の近況報告、入試情報等を知らせて欲しい。 <地域社会> 交通マナー、公共の場でのマナーを守らせて欲しい。	連携する相手への要望・期待 <家庭> 本校教育方針への理解と協力。特に家庭でのしつけの部分を強化して欲しい。 <中学校> 基礎学力の定着。連携を密にとりながら信頼関係を構築していきたい。 <地域社会> 本校の教育活動を理解し、協力してもらいたい。
(3)前年度の学校関係者評価など	○ 久居高校の生徒は挨拶をしてくれる生徒も多く、地域の評判は悪くない。久居高校の良さを発信し、さらなる発展を期待している。 ○ ホームページでの発信は、普段の学校生活がわかるような内容や動画で視覚的に訴えるなどの工夫が必要である。 ○ 子どもの責任ではあるが、配付されたプリントが保護者の手元に届かないことがある。保護者にもメール等で連絡してもらえると、子どもに確認できる。 ○ 登下校時に保護者の送迎が多く、交通事故等が心配である。送迎時の乗降について、定期的な呼び掛けを行うなど、安心・安全な学校づくりを推進していただきたい。	

(4)現状と課題	教育活動	○ 教科学習に対し苦手意識が強い生徒、目標達成に向け地道な努力を重ねることが苦手な生徒も多い。自ら学ぶ意欲を育てるための授業改善・授業力向上が求められる。 ○ 多様な生徒への対応が求められる中、学校生活や授業を通して生徒との関わりを密にし、生徒理解を深め、生徒の成長を促す取組の継続が必要である。 ○ 基本的な生活習慣が身につけていない生徒にルールを守ることの大切さを伝えるとともに、生徒自身のルールメイク意識の向上を図ることで規範意識を育てる。 ○ 外部の協力を求めながら、生徒の進路選択、進路実現に向けた支援のための研修、セミナー等の充実を継続していく。
	学校運営等	○ 授業改善・授業力向上については、授業見学だけでなく研究授業や協議を行うことで、また生徒の人権が尊重される授業づくりの視点を踏まえた取組は現職教育等を行うことで、本校の目指す教育についての共通認識を持つ必要がある。 ○ 進路多様校としての久居高校の魅力が中学生や保護者に伝わるよう、普段の学校生活がわかるような内容や動画で視覚的に訴えるなど、中学生が本校の魅力について、理解を深めることができるよう情報発信に力を入れる。 ○ 具体的な活動・成果指標を客観的に計り、改善点を次年度に提示するシステムの構築が必要である。 ○ 行事・業務等のスクラップ＆ビルドをはかることで、多忙感を解消し、生徒と向き合う時間を確保するとともに、過重労働時間の削減を図る。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	1. 校訓「意欲・誠実・創造」を実践することができる生徒を育む教育活動の推進 ○ 基本的生活習慣の定着・向上と規範意識を醸成し、社会生活において求められる力を育むとともに、互いを尊重する心、思いやりの心を育む生徒指導に取り組みます。 2. 単位制・コース制の特長を生かし学力の定着・伸長、言語活動向上への取り組みを推進 ○ 生徒の多様な進路希望を実現するため各コースの取組の充実を図ります。 ○ I C T の活用等による各コースの学びの充実を図ります。 ○ 学習習慣の確立・定着を通じて社会生活の基盤となる学力の向上を図ります。 3. 進路に応じたコースと選択科目の設定、少人数授業により、一人一人の進路実現に向けたキャリア教育を推進 ○ スポーツコースは、3年間を通して体育の専門科目をカリキュラムに取り入れた授業と校外実習等により、運動能力を生かし多様な進路が実現できるようサポートします。 ○ 普通コースは、「少人数授業」によるきめ細かな学習指導と授業選択モデルの設定により、4年制大学・短期大学・専門学校への進学、就職（公務員試験対策含む）など多様な進路希望の実現をサポートします。 ○ チャレンジコースは、国公立大学、難関・中堅私立大学等への進路実現に向けた学習指導をします。 4. 教育活動全体を通じて人権教育を推進 ○ 人権が尊重される学校づくりの推進により、自己存在感、共感的人間関係、自己選択権・決定権の育成を図ります。 ○ 生徒、教職員、保護者が差別につながる言動に出会ったときに気付くことができるよう、個別の人権問題にかかわる実践力を育むよう取り組みます。 5. 人間力の向上を図る取り組みの推進 ○ 学校行事や部活動、生徒会活動、ボランティア活動等を通じて責任感、協調性、礼儀、マナーを身に付け人間力の向上を図ります。
学校運営等	1. 教職員の資質向上 ○ 学習指導要領と観点別評価、高大接続改革、I C T 教育への対応 ○ 授業参観、教科会の活用を通じて教職員の授業力の向上に取り組む。 2. 地域への発信 ○ 広報活動の体制と内容を改善・充実させる。 3. 教職員の働きやすい環境づくり

	○ 総勤務時間を縮減し、働きやすい環境づくりを推進する。 ○ 部活動指導の工夫・改善、「部活動ガイドライン」への対応。 ○ 不祥事防止を他人事として捉えず、自分の問題として捉え、信頼される学校であるよう行動する。
--	--

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○ 高校生活に明確な目的意識を持ち、授業、学校行事等に主体的・積極的に参加するなど目標に向かい意欲的に取り組める生徒 ○ スポーツ・文化活動やボランティア活動、人権活動または国際交流等に積極的に取り組んでおり、入学後もそれらの活動に継続して意欲的に取り組める生徒 ○ 国公立大学や難関・中堅私立大学等への進学を目指し、各教科の学習に意欲的・積極的に取り組める生徒
--	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 校訓「意欲・誠実・創造」を実践することができる生徒を育む教育活動を推進します。	【1学年】 ○ 基本的な生活習慣の定着など、人間力を高めるよう取り組む。 (活動指標) ・授業を大切にしよう、指導を行う。授業の準備を早めに行い、授業遅刻をしないよう指導を行う。 ・学校行事に積極的に取り組むよう指導する。 【2学年】 ○ 授業や学校行事に前向きに取り組む、一人一人が健全に成長し、周りの人のことも考え行動できるようにし、卒業後に自立と自律ができる力を身につけさせる。 (活動指標) ・一人ひとりが社会規範を正しく認識し、登校遅刻・授業遅刻・授業の中抜けをせず、頭髪服装等の校則を遵守できるように支援していく。 ・HR活動や学校行事に積極的に取り組ませる ・SHR、LHR、個人面談、総合的な探究の時間、学年集会、「学年だより」、生徒指導部や保健部との連携などを通して指導を展開していく。 (評価指標) ・2学年学校遅刻数について、対前年度比で5パーセント減を目指す。 ・年度末に生徒アンケートを実施し、HR活動や学校行事の満足度85%以上を目指す。	【1学年】 ・遅刻について、1月末現在までで延べ441人の遅刻、実人数は108人。 ・授業遅刻をしたことのある生徒について、69%(138名)延べ490回。 ・学校行事については、おおむね取組目標を達成できた。 【2学年】 ・学校遅刻について、対前年度比は20%(80回)増加→SHR前に登校指導を行った。 ・他の分掌やSC等と連携し、生徒一人ひとりに目を向けたサポートができた。 ・HR活動や学校行事に前向きな姿勢で積極的に取り組み、自分自身が成長したりクラスの成長に貢献できた生徒は多い。 ・体育祭満足度 98% ・文化祭満足度 98% ・クラス活動や学校行事が自分自身やクラスの成長につながったと感じている生徒 95%	

2. 単位制・コース制の特徴を生かし学力の定着・伸長、言語活動向上への取り組みを推進します。	【保健部】 ○感染症対策を継続するとともに、充実した学校生活の基礎となる基本的生活習慣を大切にする指導を行い、学年団や各分掌と連携して指導にあたる。(保健) ○様々な理由で悩みを抱える生徒、保護者の話に耳を傾け、学年団・各分掌と連携して支援にあたる。必要に応じてスクールカウンセラー・ソーシャルワーカー・高校生活スペシャルマネージャーと連携して指導にあたる。(教育相談) (活動指標) ・保健日より等により、基本的生活習慣の大切さを周知する。 ・保健室利用時の問診等を通じて生徒自らが生活習慣を改善できる力を養う。また、検診結果が保護者に届くよう伝え方を工夫する。 ・学年だけでなく、人権や生徒指導部、進路指導部との定期的な情報交換を行う。 ・高校生活スペシャルマネージャーによる職員研修を実施する。 (評価指標) ・歯科検診で受診勧告をした生徒の受診報告書の回収率10%増を目指す。 ・1か月に1回以上、他の分掌との情報交換を行う。 ・職員研修後に満足度調査を行い、満足度70%以上を目指す。 【スポーツコース】 ○スポーツを通じて自他の課題を発見し、合理的、計画的に解決する能力を養う。 (活動指標) ・授業の開始時のめあての確認を必ずする。 ・映像などを使い、自分や他者の動きを確認させる。 ・グループで練習法や作戦などを確認させ、考えを共有させる。 ・授業の最後に振り返りをする。 (評価指標) ・学年末にアンケートを実施し、生徒満足度80%以上を目指す。 【チャレンジコース】 ○チャレンジコースの系統的な指導体制を充実させ、確実な学力を身につけさせると共に、チャレンジコース教科担当教員の進路指導力を向上させる。 (活動指標)	【保健部】 ・換気等の基本的な感染症対策を継続した。 ・来室した生徒で、睡眠や食事に課題がある生徒に指導を行った。 ・生徒自身による相談については、スクールカウンセラーに82回、ソーシャルワーカーに16回、高校生活スペシャルマネージャーに12回(述べ人数)。 ・発達障がい支援員による職員研修は2回行った。 ・月に一回発行の保健だより、また廊下や文化祭企画での掲示物により、生活習慣の大切さを周知した。 ・検診後の受診勧告について、保護者会で保護者に渡し、保護者に生徒の状況を確実に伝えることができた。 ・歯科検診で受診勧告をした生徒の受診報告書の回収率は7%。 【スポーツコース】 ・各種の運動領域において、それぞれの特性に応じた指導ができた。継続的な指導により、3年生では自ら立案し、指導することができた。 ・授業前の目当ての確認、授業後の振り返りだけでなく、各単元ごとのGoogleformによる振り返りもできた。クロムブックのカメラ機能や検索等を活用し、技術向上や戦術等の理解にもおおいに役立った。 ・アンケートでは、大変満足している、おおむね満足しているが約90% 【チャレンジコース】 ・課外授業等の手厚い指導を行った。 ・予備校主催の高校教員対象の指導力向上のためのセミナーや三重大学入試問題研究会等へ複数の教員が参加した。 ・各学年チャレンジコース担任と連携
---	--	--

	・各学年、チャレンジコース教科担当者会議（模試分析など）を定期的に実施する。 ・課外授業やICT等を活用しながら、より充実した教科指導体制を構築していく。 ・学習研究部とタイアップした指導により1年次から系統的指導を行う。 （評価指標） ・GTZ や偏差値などの客観的数値を見ながら個別指導や取り組みの改善を行う。 【3学年】 ○生徒一人ひとりに対して、将来を見据えてきめ細かな進路指導を行う。 （活動指標） ・進路先でやりがいを持ち続けられるよう、学力および自己管理能力を向上させる。 ・個人面談の充実を図る。 （評価指標） ・模試や基礎力診断テストの結果において、前回比・前年比で数値の向上を目指す。 ・振り返りのアンケートにおいて成長度や満足度がそれぞれ80%以上を目指す。	を密にし、模試等の結果を分析するなど、指導の改善につなげた。 【未達成】1年 +0.7 ポイント 2年 +1.3 ポイント（進研記述模試・英数国の平均偏差値 1月模試－7月模試） 【達成】「とても満足している」「満足している」100% 【3 学年】 ・進路指導について、進路指導部と連携し効果的な指導に努めた。また、生徒や保護者と連絡を密にし、丁寧な指導を行った。 ・学力及び自己管理能力の向上について、担任が時機を見て個人面談を実施し、指導を行なった。 ・経年比較で基礎力診断テストは大きく低下することはなかったが、学習習慣の定着には課題がみられる。 ・おおよそ 8 割以上の生徒が学校生活について満足と回答した。	
3. 多様な進路に応じた授業選択モデルと選択科目の設定、少人数授業により、一人ひとりの進路実現に向けたキャリア教育を推進します。	【進路指導部】 ○生徒の多様な進路希望にきめ細かく対応するため、各学年団、各分掌、各教科と連携して進路指導の内容を充実させ、生徒満足度の高い進路指導を展開する。 （活動指標） ・各セミナー別指導で3年担任団と協働し、情報を共有して生徒の学習を支援することで生徒の進路実現をサポートする。 ・課外授業や面接、志望理由書作成の指導に多くの教員が関わることで、生徒への個別指導を充実させる。 ・進路指導部の考え、取みや悩み・進学就職情報を職員会議等で発信する。各分掌との連携を大切にする。 （評価指標） ・年度末に3年生全員への進路指導満足度調査を実施すると共に、各セミナー指導に対する調査を実施し、満足度90%以上を目指す。	【進路指導部】 ・進学希望生徒へのセミナー、就職希望生徒へのセミナー等をそれぞれ複数回実施し、担任団の指導により、生徒の意識向上につなげた。 ・「志望理由書作成講座」「自己PR作成講座」「なります講座」「なるには講座」等を行い生徒の意識向上に繋がった。 ・模擬試験の過去問題をデータ化し、生徒への指導に有効に活用している。 ・面接・志望理由書の作成指導にも多くの教員が指導にあたり、丁寧な指導ができた。	
4. 教育活動全体を通じて人権教育を推進します。	【人権教育推進担当】 ○あらゆる機会(授業・HR 活動・部活動・日常での関わりなど)を通して生徒の人権を尊重することにより、人権教育を日常の教育活動としていくことをめざす。その中でも特に「生徒の人権が尊重される授業づくりの視	【人権教育推進担当】 ・教職員研修について、「人権が尊重される学校づくりに向けて」と「性的マイノリティー(LGBTQ)」を行った。 ・職員研修を通して本年度の「授業づくり」を振り返った。	

5. 人間力の向上を図る取り組みを推進します。	点」を持ち、授業を通して生徒と“向き合う”ことを実践する。 (活動指標) ・「生徒の人権が尊重される授業づくり」の取組の検証 ・LHR を活用した人権学習の取組の検証 ・人権侵害事象発生時における対応力の検証(評価指標) ・「人権教育カリキュラム」に基づいた取組を実践し、推進度の達成率が 80%以上になることをめざす。 ・年度末の「生徒アンケート」において学習達成度 80%以上をめざす。 【生徒指導部】 ○遅刻の防止、問題行動や課題の未然防止教育、早期発見対応により、生徒指導件数の減少に努める。 (活動指標) ・生徒会と連携し生徒と教職員が共にルール作りを推進する。 ・日常における小まめな声かけ等を通じ、問題行動や課題の未然防止、早期発見対応に繋げる。 ・NG カード指導により、日頃から社会規範を身に付けることを意識した学校生活にする。 (評価指標) ・生徒会との対話を学期に一回以上行う。 ・月一回継続指導者に声かけをする。 ・生徒指導件数が前年比10%減を目指す。 ・NG カード指導件数の年度初めと年度末の比較を行う。	・年度初めに「学校における人権侵害(差別事象)の初期対応について」を配布し、確認・共有化をはかった。 ・「人権教育カリキュラム」の取組状況達成度は 73%。 ・生徒の学習達成度は「しっかり理解し、学習できた」と「だいたい理解し、学習できた」が 97.5%。 【生徒指導部】 ・昨年度と比較して、犯罪行為0件→1件、ぐ犯・不良行12件→6件、その他3件→6件。 ・遅刻について、実遅刻者人数が41人減。 ※上記 2 点は生徒数減を考慮に入れると、横ばい。 ・謹慎を繰り返す生徒が減少した。 ・生徒会と協力し、文化祭でのスマホや異装についてルールメイキングをすることができた。 ・継続指導者への声かけ等で関係を築きながら粘り強く指導した。 ・指導件数について、10%減を達成。 ※生徒数減を考慮に入れると横ばい ・NG カード指導により、校内での制服の着こなしは大幅に改善した。	
--------------------------------	---	--	--

改善課題

【1 学年】

基本的な生活習慣の確立をさらに徹底できるよう、こまめに声かけをしていく。

授業を大切にする気持ちを持たせる。必要に応じて学年での指導などを取り入れていきたい。

【2 学年】

・身だしなみについて、引き続き、保護者に指導協力を求めながら、生徒指導部と連携し、学年団全員で粘り強く指導を行っていく。

・遅刻については、担任を中心にケアしているが、すぐには改善していかないのが実情である。次年度に向け、新担任への引き継ぎを確実にし、継続的にサポートしていく。

【保健部】

・チームスを活用し、感染症の罹患状況や、来室者の状況、生徒の生活習慣に関する注意事項など、職員間で共有すべき事項について積極的に情報発信すること。

・教育相談について、外部の専門家との連携を密に行い、外部の専門家の更なる活用を促すこと。

【スポーツコース】

継続的な指導により、それぞれのスポーツでリーダーとなれる力が身についたが、自分の不得意な分野でも対応できる幅広い知識も必要である。スポーツ概論などを活用し、映像の比較など、科学的なトレーニング

グ方法を身につけ、実践できるようにしたい。

【チャレンジコース】

受験生の負担がさらに大きくなる中、入試動向を教員が理解し生徒の進路指導に生かすことが重要だと考える。進路指導部からもさまざまな情報を発信したい。

【3 学年】

進路多様校である本校は、面談で希望状況を把握し進路指導部と連携し、生徒の進路希望の実現を目指してきた。担任団が相互に協力的であり、臨機応変に役割分担をして適切に生徒対応できたと思われるが、本校ならではの課題もあると感じた。

【進路指導部】

自主性や自分で生きる力をつけていく為に、引き続き、担任が中心になって丁寧に指導していく。

【人権教育推進担当】

「生徒の人権が尊重される学校づくり・授業づくり」をめざし、引き続き取り組んでいく。「人権教育カリキュラム」について、引き続き取組を推進していく。学習の成果が「人権尊重の行動につながる意欲・態度や技能」につながり、「差別をなくす」具体的な行動につながるような学習内容の構築を行う。

【生徒指導部】

ルールを守りにくい課題の残る生徒は一定数いるものの、NG カード指導導入により多くの生徒の行動が一機に改善した。次の課題として、校外での生徒の姿を改善していく取組が求められる。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 教職員の 資質向上に 努めます。	【教務部】 ○授業参観、教科会の活用を通し教職員の授業力向上に取り組む。 ○各科目における ICT を活用した授業を推進し、生徒の学習力、表現力向上に取り組む。 (活動指標) ・全教員が授業を通して、生徒の学力向上、人間力向上に努める。 ・Chromebook を活用した調べ学習やプレゼンテーション、小テストなどを授業等で進める。 (評価指標) ・全教員の授業参観及び校内研修参加回数平均3回以上。 ・生徒の授業満足度 80%以上。 ・ICT 機器を有効に活用できた教員 80%以上。	【教務部】 (1)生徒の授業満足度 ・授業のすすめかた : 96% ・授業のわかりやすさ:94% ・学校生活: 96% (2) ICT 機器を有効に活用できた教員:70% (3)授業参観・行内研修 ・教員の授業研究・教科会実施回数 各教科平均: 8 回 ・各種校内研修の実施および参加回数 実施回数:8 回 ・教員の平均参加回数: 7 回	
2. 地域への 発信を充実させます。	【総務部】 ○中学生に対して魅力あるメッセージを届けられるように、オープンスクールの実施内容等の充実を図る。 (活動指標) ・オープンスクールにおいて本校のコース制や部活動等について、わかりやすく伝える。	【総務部】 来年度から採用する制服のファッションショーや、部活動の説明(披露)、各コースの説明、在校生インタビューなど、中学生に久居高校の魅力を伝える方法を実行した。 夏のオープンスクールにて、「以前	

3. 教職員の働きやすい環境作りに取り組みます。	・昨今の社会情勢を考慮し、効率のよい実施内容にする。 (評価指標) ・アンケートにおいて、「以前よりも本校に興味が出た」項目で80%以上を目指す。 【管理職】 ○過重労働時間の減少を図る。 (活動指標) ・月2回の定時退校日を設定する。 ・会議資料の精選や teams を活用し、会議時間の短縮を進める。 ・45時間以上の過重労働職員の数をもととする。 ・休暇取得を増加させる。 (評価指標) ・月2回の定時退校日に定時退校できた職員の割合を80%以上にする。 ・放課後に開催された会議のうち、60分以内に終了した会議の割合を100%にする。 ・休暇取得24日以上、うち年休取得14日以上を目指す。 ・時間外在校時間、月平均 30 時間以内を目指す。 ・年360時間を超える時間外労働者の延べ人数を0人とする。 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数を0人とする。 ○部活動休養日を設定する。 (活動指標) ・部活動休養日を原則週1回土・日(試合がある場合は翌週)に設定する。 (評価指標) ・週1回設定できた部活動の割合を100%にする。 ○不祥事を根絶するため、職員への啓発を図る。 (活動指標) ・今年度作成した「信頼される学校であるための行動計画」に則った活動・点検を行う。 (評価指標) ・「信頼される学校であるための行動計画」の自己評価で「できた」と答えた職員の割合を100%にする。	よりも久居高校に興味を持ちましたか？」項目に98%が「はい」と回答。 【管理職】 ・定時退校日を月 2 回設定した。定時退校できた。65% ・60 分以内に終了した会議 78% ・休暇取得は19. 21日、年休取得は11. 26日 ・時間外在校時間の月平均は 25.01 時間 ・年360時間を超える時間外労働者は 1 月末時点で 16 人 ・45 時間以上の過重労働職員は 72 人 ・部活動休養日の設定は100% ・不祥事の根絶について、様々な機会において啓発を行った。 ・「信頼される学校であるための行動計画」における自己評価で「できた」は100%	
改善課題 【教務部】 多忙で多様な業務に対応するためにも、今後も ICT 機器の一層の活用を促進し、授業と校内業務の両面で効率化を図りたい。 【管理職】 過重労働の縮減については、さらに工夫をし、生徒の安心安全を守りながら、改善できるよう努力したい。			

6 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	○遅刻や忘れ物等について、基本的生活習慣を確立し自律にむけて指導していく。 ○基礎学力の定着について、家庭学習を習慣にし、毎日の授業を大切にするような環境づくりを進める。 ○生徒の学校生活についてのアンケートより、満足度が高いことがわかったことから、引き続き生徒一人ひとりを大切にした教育を行っていく。
-----------------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	○生徒の自律する力をつけるため、基本的生活習慣を確立できるよう指導していく。 ○基礎学力の定着のために、一人一台端末を活用した繰り返し学習のツール等を利用しながら、生徒の学習を支援していく。
学校運営について の改善策	○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等をはじめ、外部機関と連携を取り、生徒の安全安心を支えていく。 ○引き続き、業務について整理や工夫を行い、教職員の健康を大切にしていく。 ○引き続き、研修等を通して、信頼される学校であるための行動をとっていく。